

ご挨拶

白井 政夫*



この度、KYBは今年の3月10日に創立80周年を迎え、また、『KYB技報』も創刊以来、四半世紀の時を経て記念すべき第50号を発行するに至りました。これまでに、技報にてKYBグループの技術・製品開発の成果をご紹介し、ご好評をいただいております。ここでは、KYBグループを取り巻く環境に触れながら、技術開発に対する私の想いを述べさせていただきます。

・KYBグループを取り巻く環境

2014年は日本にとって、節目の年でした。衆議院選挙が行われ、第三次安倍内閣が発足しました。3本の矢の成長戦略が民間投資を喚起できるかどうか、2015年はアベノミクスの真価が問われる年と言えます。

KYBを取り巻く環境に目を向けますと、アメリカの景気は堅調であるものの、欧州、中国、新興国ではこれが低迷するなど、先行き不透明感が強まっています。自動車市場では販売の伸び悩み、建設機械市場では6トンクラス以上の需要落ち込みが予測され、KYBグループ事業への影響が懸念されますが、2020年のオリンピック需要など、明るい材料も見えています。

また、2014年度から新たな中期経営計画がスタートしており、「KYBグループ力をもって、グローバルで戦い、世界で勝つ」という2020年ビジョン達成に向けて、スピード感を持って進めているところです。

モノづくりの企業として成長し続けるためには、ひとり一人が自ら行動し、知恵を絞って、技術開発力を強化するとともに、モノづくりを改革し、組織力と機動力を持って活動することが必要不可欠であると考えています。従業員が一体となって、現状と目指す姿のギャップを埋め、2020年への飛躍につなげていきたいと考えています。

・創立80周年の感謝と100周年への飛躍

先ほど、2014年は日本の節目であったと述べましたが、KYBグループにとっても2015年がまさに節目の年になります。昨年、KYBグループ初の海外

拠点である台湾の拠点が創立50周年を迎えたことをはじめ、スペイン、アメリカ、ドイツやその他拠点でも重要な時期を迎えました。

KYBグループでは、「80周年の感謝と100周年への飛躍」として、20年後の100周年に向けて一体感を高めていくために、～Globalization（国際性）、Succession（伝承）、Diversity（多様性）～をコンセプトとした活動を展開し、グループ全体の一体感を高めていく所存です。

・技術・製品開発への期待

KYBの技術の源流は、創業者である故萱場資郎氏が発明した航空機用の油圧緩衝器に適用された油圧技術に遡ります。この技術を自動車、二輪車、建設機械、航空機、ミキサ車、免制震、舞台装置に応用し、事業を拡大して参りました。更に、近年では、製品の電子制御化や情報通信技術にも対応しており、裾野を広げています。今こそ、KYBグループの総力を結集して、システム化やモジュール化の対応を進め、100周年に向けて飛躍していく時期ではないかと考えています。

また、技術・製品開発に限ったことではないですが、取り組むべき課題に対しては、常に高いハードルを設定することが重要です。そして、ただ単に改善にとどまることなく、改革に向けて挑戦することで、新たな差別化製品が生まれると私は信じています。このように、お客様に喜ばれる製品をタイムリーに提案、提供し続けるメーカーになりたいものです。

そのためには、技術力、開発力、創造力が必要であり、まさにそれは人の力であると思います。人財を如何に育て、活かし、達成感溢れる環境づくりこそ、最も重要なことと考えます。

最後になりましたが、KYB技報の継続発行がなされ、世界中のあらゆる技術者にとって貴重な技術情報源になることを願い、私のご挨拶とさせていただきます。

*当社代表取締役社長執行役員